



土田酒造さんでは、教科書には書いていない新しいことに挑戦している、と聞きました。

私も何事にも挑戦していこうという思いを新たにしました。失敗を恐れず、努力していきたいです。

杜氏の星野さんのように私も自分が好きなもの、興味が湧くものを見つけて、就職活動を頑張っていこうと思いました。

実習先:土田酒造(株)  
関東学園大学 経済学部3年  
DAIKI



GLLPインターンシップを通して、次の3つのことを学びました。

第一は、新しい環境に立った時にもつ不安な気持ちをうまく前向きに転換することができるようになったこと。

第二は、他人との衝突を恐れなくなったこと。衝突したときに、他人と自分の「当たり前」が異なっていることに気づくから。そこから、世の中に通じる「当たり前」を模索することができるから。

第三は、大きなことを成し遂げるには、明確な方向を示すことが必要であること。  
そうしないと、物事が進まないから。

誰にとっても納得できる方向性  
が示せるようなリーダーシップ  
を身につけていきたい。

実習先: 悠湯里庵  
前橋工科大学 工学部2年  
BIN  
中国出身



GLLPインターンシップから得た経験を通して、次の2つのことを学んだり挑戦したりしてみたいと考えるようになった。

第一は、我が国には、「グローバリズム」を「ローカリズム」によって、「グローカリズム」として生き抜く潜在的可能性を秘めている地域が数多くあるのではないかと感じた。したがって、これまで赴いたことのない地域に伺い、「ローカル」を探究したい。

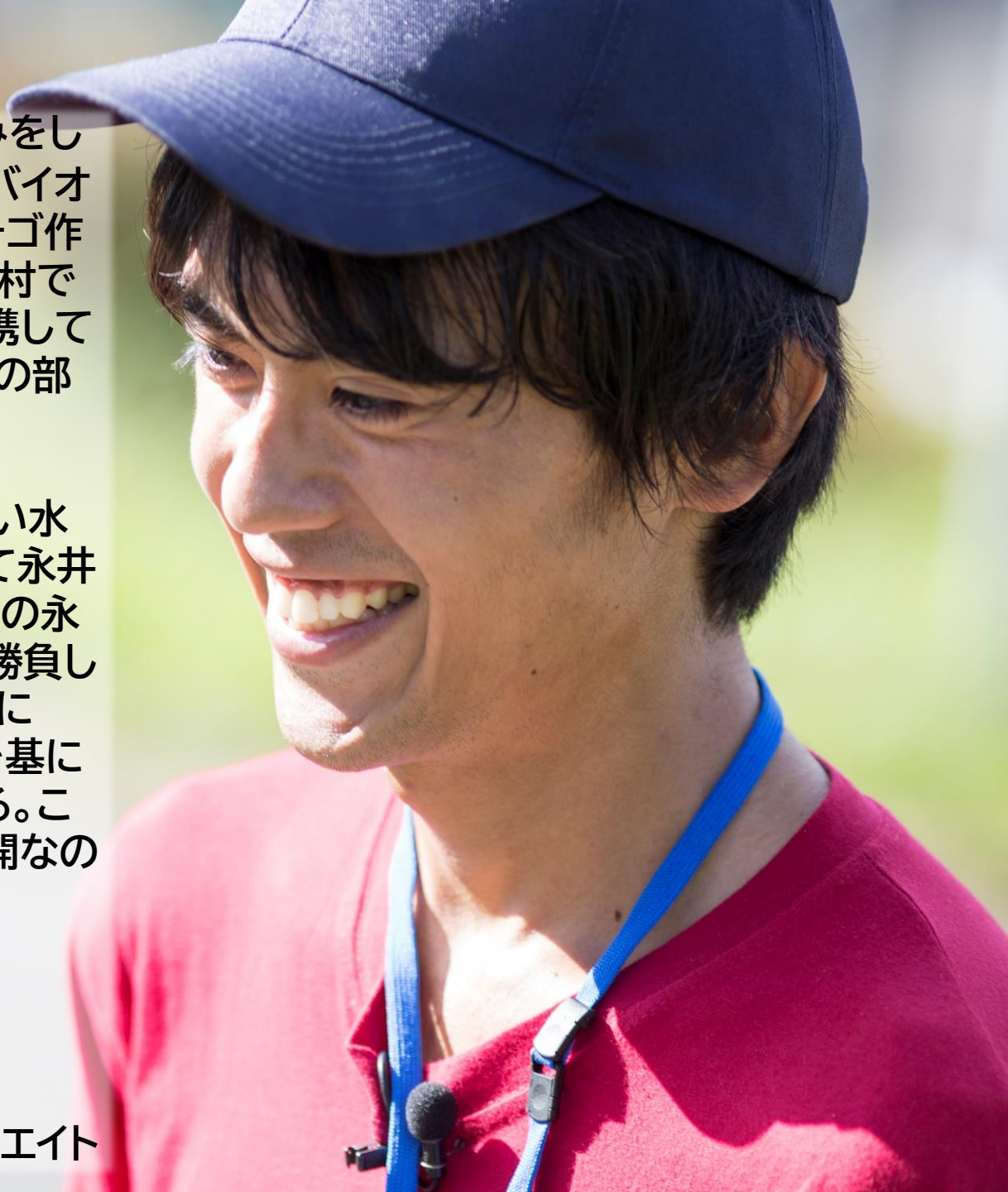
第二は、今回大変お世話になった川場村においても、いまだ発見しきれていない魅力や新しい価値を探究し続け、真のグローカリズムに向けた「グローバル戦略」を研究し続けたい。


実習先:川場村役場  
上武大学 ビジネス情報学部2年  
ATSUKI

農業×観光といった取り組みをしている雪ほたかさんの姿勢やバイオマス発電の余熱を利用したイチゴ作りなどから分かるように、川場村での個々の取り組みは密接に連携しており、それによって「ローカル」の部分を固めていると感じた。

また、川場村の綺麗で美味しい水と雪ほたかさんのお米を使って永井酒造さんが日本酒を製造し、その永井酒造さんの日本酒が世界で勝負していた。密接に関連しあうことによって強くなった「ローカル」を基にして「グローバル」に勝負に出る。これが川場村の「グローバル」展開なのではないかと考えた。

実習先:(株)雪ほたか  
東京大学 教育学部3年  
SHINSAKU  
※学生アソシエイト





GLLPインターンシップを通して、ひとつの物事に関して多角的な視点で考え、それを形にすることの困難さと偉大さを学んだ。

川場村では、間伐材をバイオマス発電や、その排熱を利用したイチゴの栽培、適度に伐採することによる森林環境の整備など、“木”や“森林”の利用・維持の方法に関して多角的な視点から取り組まれているように感じた。

私には、そのように物事を見つめ、思考する能力が乏しい。今後の学生生活や社会に出た後に、年齢や性別、キャリアや国籍などが異なる多様な人々が生活する中においても、リーダーシップを発揮できるように、日頃から多角的な視点から物事を考える訓練をしていきたい。

実習先:川場村役場  
群馬大学 社会情報学部1年  
MISAKI

今回のインターンシップを体験して、次の3つのことに挑戦したいと考えています。

ひとつ目は、田舎にある企業・団体でインターンシップしたいです。学生たちは一般に、インターンシップは就活のために考えますが、自分が住んでいる地域のために考える学生はほとんどいないと思います。

ふたつ目は、チームワーク・コミュニケーション力を伸ばしたいです。チームワークで役割を分担して、各チームで違う役割に挑戦することの大切さを学びました。

みっつ目は、都市を離れて田舎の方に行って、平和でリラックスできるところで、良い人間関係を作って自分の生活を豊かにしたいです。

実習先:(株)田園プラザ川場  
上武大学 ビジネス情報学部3年  
THANH THANH  
ベトナム出身





私は、これまでGLLP以外にも、さまざまなインターンシップに参加してきました。ふりかえってみると、それらのインターンシップには、ある種の居心地の悪さがあったように思います。

例えば、東京の大企業では、学生をお客様のように受入れ、そこで、仮想のワークを与えて、それをどれくらい解けたか解けなかったかという軸で評価していく・・・それが一般的なインターンシップのイメージなのだと思います。

一方、GLLPインターンシップは、お客様扱いではなく、内部者として、仕事の仲間として認められる。そこに、このインターンシップの魅力があり、自分自身も、2年連続で参加させていただいたのだと思います。

実習先：青龍山吉祥寺  
東京大学 教育学部4年  
KOHEI  
※学生リーダー



今回のインターンシップでは、私たちは国籍や大学など同じではないが、お互いに助け合いながら楽しく過ごしました。本当に充実していたインターンシップとなりました。

今回の実習を通して、学んだことを活かして、今後、日本の企業でのインターンシップに一人で参加してみたいと思います。そして、英語能力をもっと高めていきたいです。

私は、サービス業に就きたいと考えますので、ベトナム語はもちろん、日本語、英語でも様々な国々からのお客様に対応できるようになりたいと思っています。

実習先(株)田園プラザ川場  
高崎経済大学 経済学部2年  
MAI  
ベトナム出身



GLLPインターンシップを経験して、日本の文化・歴史について学びなおしたいと思いました。

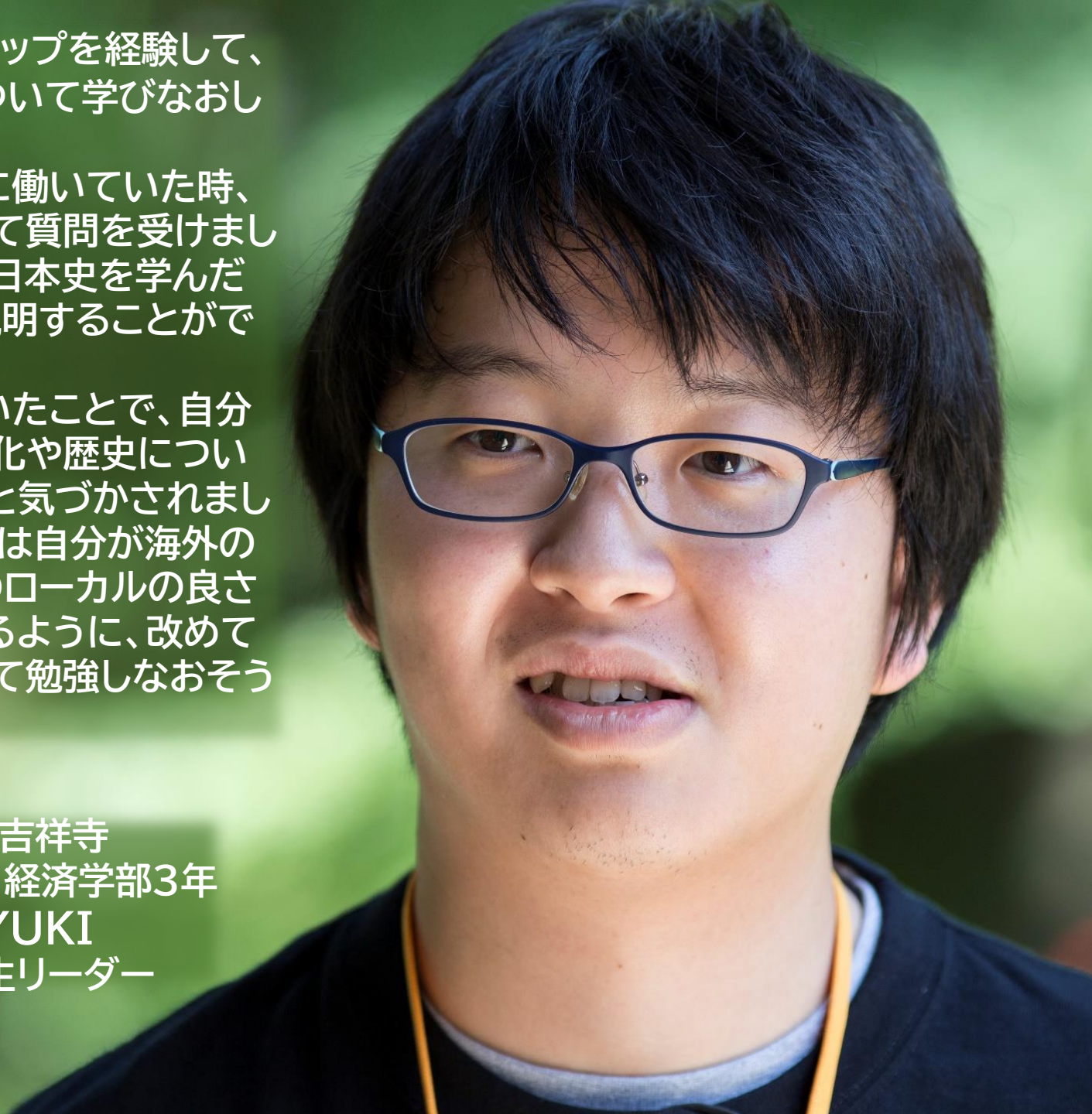
今回留学生と一緒に働いていた時、文化財の歴史について質問を受けました。しかし、日本人で日本史を学んだはずなのに、うまく説明することができませんでした。

留学生と一緒に働いたことで、自分は実は全然日本の文化や歴史について知らなかったのだと気づかされました。川場村や、ひいては自分が海外の人と働くとき、日本のローカルの良さをきちんと伝えられるように、改めて自分が住む国について勉強しなおそうと思います。

実習先: 青龍山吉祥寺  
立教大学 経済学部3年

YUKI

※学生リーダー





GLLP学生リーダーを担当することで、社会人になってからも、プロジェクトを作り、動かすことに挑戦したいと思うようになりました。

どんなプロジェクトであっても、メンバー間の意見共有、そして自律的な行動が重要なものであるということをGLLPインターンシップで体感しました。

将来プロジェクトを動かす立場になったときは、メンバーにとって双方向的なコミュニケーションと自律的な行動が可能となる環境を作っていきたいと考えています。

実習先:永井酒造(株)  
東京大学 教育学部4年  
YASUYUKI  
※学生リーダー



私は、これまでアルバイトをしてきました。そこで体験してきた働き方ややり方が、日本で正社員になったあとも続くものだと思っていました。

つまり、アルバイトは、社員さんの指示通りに仕事をこなしていくこと。正社員は、上司の指示通りに仕事をこなしていくこと。それが、日本での働き方でありやり方であると思っていたのです。

ですが、GLLPインターンシップで出会った職場での働き方ややり方は、ちがっていました。自分で考えながら工夫していくことが、アイデアとなって職場に活かされている。私は、そんな職場で働きたいと思いました。

実習先(株)田園プラザ川場  
上武大学 ビジネス情報学部3年  
NGOC  
ベトナム出身

地域の企業が、その地域をどれだけ気遣い、大切にしているかということ、働きながら実感しました。

また、今回実習を通して、合宿という形で様々な国の人々と協力して食事、睡眠を共にして感じたのは、様々な文化を持ち寄りつつも、それぞれが日本の文化に合わせて生活しているということが素晴らしいのだなということでした。

最初私は、これだけの国が集まるということに、不安を感じていました。しかし最後まで問題は起きず、むしろ協力し合い、ともに生活を送ることができたことに感動を覚えています。

実習先:永井酒造(株)  
高崎商科大学 商学部3年  
MUKHRAM  
インド出身





今回の実習で、地域と密接に繋がりつつ世界に目を向け仕事をしている方々の姿を間近に見て、自分の将来の職業を考える上で良い意味で視野が広がったように感じます。

私はこれまでも地域の方々に科学の力を用いて貢献できるような人材になりたいと考えていましたが、それはどちらかと言えば研究室にこもり、得た成果を何らかに生かせれば良いなという消極的な考えでした。

しかし、今回の実習でお世話になった方々は地域と直接関わっていくなかでこれからどうするべきかを考える、積極的な考えを持った方ばかりであるように感じました。一概にどちらの方が良いとは言えないけれども、自分の思い描いていたものとは違う形で地域に貢献している仕事の存在を知ることができたのは自分の知見が広がったという意味でとても有意義でした。

実習先(株)田園プラザ川場  
群馬大学 理工学部2年  
CHIORI



私は普段、ひとり暮らしをしているので、GLLPインターンシップでの合宿生活でうまくできるか心配でした。しかし、参加している人たちは、見方や考え方も異なっているので、いろんな話を聞き、考え、コミュニケーションを工夫することを楽しめるようになりました。

この合宿生活でいろいろな人の様子を見ながら自分にできることを考えるという体験は、悠湯里庵でのインターンシップでもさらに考えることにつながりました。サービス業とは何か、ということを経験でき良かったです。

実習先：悠湯里庵

高崎経済大学 経済学部3年

LIANG LIANG

中国出身

杜氏さんが、酒造りの過程の変化に自分の生活をあわせ、丁寧に、語りかけるように育てていく日本酒。「これが仕事だったらとっくにやめてるよ」と笑いながら悩み、試行錯誤されていたお姿が、とても印象的でした。

頑張らず、楽しむ。その柔らかい心構えが、土田酒造の日本酒の優しい味わいになって現れているように思いました。

お酒をいただく側としても、大切に、丁寧に、作り手の想いを感じながらいただきたい・・・心からそう思うようになりました。

実習先:土田酒造株式会社

立教大学 現代心理学部4年  
HITOMI GINA  
※学生リーダー



外国人留学生と一緒に働いたり共同生活したりという経験をしたことで、こうした経験をもっと積みたいと考えるようになりました。これまでもアルバイト先に何人も外国人がいて日本語や英語でコミュニケーションを取ってきましたが、いずれも日本語が流暢な同僚たちでした。今回一緒に働いた留学生はまだ日本語が高いレベルには到達しておらず業務上の指示を理解するのに苦労している場面が多々あり、積極的にサポートをする必要がありました。

これは初めての体験で大変なことも多かったですが、同時にとても挑み甲斐のあることでした。この経験を活かし、将来的に日本で外国語を母語とする人たちと働く際は積極的に彼らをサポートしつつ、体系的なサポート方法を模索し職場のより多くの人が彼らをサポートしやすいような環境を整備することに努めたいです。また、今回の実習から自分が海外にて勤務するイメージも少し湧きました。

実習先：悠湯里庵  
東京大学 教育学部3年  
HARUMORI  
※学生アソシエイト



今後社会人として、事業面から地方創生に関わる機会もでてくると思います。川場村の内部に一週間入り込むことで感じた、縮みゆく日本の中で伸びるには不可欠な、「規模に関わらず有効な事業を自治体とうまく組み合わせる」視点を常に持ち、状況に一番適したものを正しく選べる目を養っていきたいと思います。

また、違う文化、コンテクストを持つ人々と働く際に合意形成を行なって一つの結論にもっていく方策についても、一週間の川場村での合宿生活の中からヒントを得ました。少し不便な中でも、互いのことを思いやり、協力、楽しみながら合意形成をしていくことが一週間の課題でした。この経験を生かし、個々人ときちんと対話することにより、お互いにとって実りある合意形成を主体的にしていける人材になりたいと思っています。

実習先：川場村役場・(株)田園プラザ川場  
東京大学 教育学部4年  
GOYA ※学生リーダー



今回の実習を通してお客さんからの要望として田園プラザのノンアルコールビールはないのかと聞かれることが多かったです。これはドライバーの人と一緒にノンアルコールビールをのんで田園プラザでの食事を楽しみたいという意思の表れだと思いました。

お酒を売るうえで離すことのできない、“お酒を飲めない人”こういった陰の功労者にどう訴えかけていくかどのような製品、どのようなサービスを提供するべきか学び、挑戦してみたいとより考える事ができるようになりました

去年はどちらかといえばサービス面で楽しんでもらえる酒蔵について考えたので、それ以外にも製品でどのようなアプローチをした製品を作ればいいのか考える事ができるようになったというのは、今回のインターンシップで自分が成長した点であると思います。

実習先:(株)田園プラザ川場  
群馬大学理工学府修士1年  
TAKAHITO ※学生リーダー



実習を通じて、川場村が行っている「グローバル」展開は、「ローカル」部分を中心とした持続可能な循環において「グローバル」な発信・受信も行っていると考えました。

その具体例として、悠湯里庵様のように、川場村では地産地消に力を入れている施設が多くあり、観光客に地元のものをお食べしてもらう・購入してもらうことが念頭に置かれています。また、雪ほたか様では、お米の栽培・提供・品質向上・田園風景の維持など、米づくり全体の持続可能性の確保がなされています。

農業や農作物の地産地消という「ローカル」に見える循環の中に海外から人を呼び込もうとしていたり、商品を海外展開していたりという「グローバル」な部分があり、川場村の「グローバル」な輪ができているのだと思います。

実習先:悠湯里庵・(株)雪ほたか  
群馬大学 社会情報学部3年  
NOZOMI  
※学生リーダー



永井酒造さんでは、日本酒が好きで酒造業をしている方が何人もいて、お酒を造る作業や味の変化などをただの仕事ではなく、いい意味で一つの趣味としてお酒造りに取り組んでいるように見えました。

その表情はとても希望に満ちていて、この酒造業を楽しんでいることがひしひしと伝わってきました。その姿を見て私も自分のやりたいことを職業にし、楽しく仕事をしたいと思いました。自分の好きなものが仕事になるということは言わば天職で仕事に対する意欲、向上心もより一層湧くと思います。

私はこれから就職活動に入る  
ので、業種を決める際に  
自分に問いただし自分が素  
直にやりたいと思った業種  
に決めたいと思います。

実習先:永井酒造(株)  
関東学園大学  
経済学部3年  
NAOTO



地域産業や地域振興について地方の衰退が進む中、魅力ある地域づくりが求められています。

GLLPインターンシップで体験した、フィールドワーク、そしてその知見をを豊富に取り入れたアクティブラーニング型の学習は、観光産業への就職にも興味を持っている私にとって、とても貴重なものでした。

これからも、地域に埋もれている観光資源の発掘や、魅力あるコンテンツ作成・発信などについて挑戦してみたいと思います。

実習先：青龍山吉祥寺  
高崎商科大学 商学部3年  
TU  
ベトナム出身



GLLPインターンシップ実習で強く感じた点は、川場村の「グローバル」展開は決して村の人が置き去りで進められているのではなく、「村全体で」展開するという意識が強いという点です。

田園プラザでの実習の際、店員の皆さんが生産者の方をととても大事にされているという印象を感じる事が多くありました。田園プラザは村の方も含めた全員で作られていることがわかり、「地域に根ざす」という点が重要視されていることを体感しました。

実習先(株)田園プラザ川場  
群馬大学 社会情報学部1年  
SAAYA



GLLPインターンシップでは、合宿を通して行われるため、生活リズムが異なる学生たちとともに、工夫して生活し、実習に取り組みます。外国人留学生・日本人学生の間にも、生活リズムは多様です。その多様性を認め合う、自分とは異なる人も受け入れながら生活をする、ということの大切さを知る体験ができました。

会社に入ってから、いろいろな人の多様性を認め合うということを念頭において頑張って生きたいと思います。

実習先:永井酒造(株)  
明治大学 農学部4年  
YUDAI  
※学生アソシエイト





グローバルを突き詰めるとローカルとなり、ローカルを極めていくとグローバルになると思いました。

川場村での取り組みが村だけでなく、川場村を訪れた多くの人々の心の中に残り、それが川場村の魅力としてその人の心に刻まれる。たまに癒しを求め、帰ってきたいと思う第二の故郷になる。

よそ者である私たちや観光客の方々--外からのグローバル視点で川場村のよさを見出すことがローカルとしての川場の魅力となり、川場の中で取り組む新しいローカルな活動が新しい魅力として外へ発信されていく……。

外と内が連鎖的に絡み合い発展へと導かれていくというのが、私にとっての「グローバル」です。

実習先: 青龍山吉祥寺

上武大学 ビジネス情報学部1年

YUKIMASA



川場村は、小さい村であるにもかかわらず、豊かな森林資源を活かして、総合的で複合的な生産システムを作っていることを知りました。

木材コンビナートでテーブル板をつくったり、間伐材を活用して木材チップをつくりバイオマス発電の材料になっていました。そのエネルギーはイチゴハウスの温水になっていました。

GLLPインターンシップでは、イチゴの苗を植えつづけていましたが、その経験を通して、役場が、個人の利益ではなく、村の利益のために、人が働き、利益を分かち合う仕組みをしっかりとつくっていることを理解することができました。

実習先:川場村役場  
上武大学 ビジネス情報学部3年  
LINH



私の目標は地元の米や野菜を、町を始め、市や県、全国、海外に発信して行くことです。実習先の雪ほたかでは、米のデータを農家個人にフィードバックすることで、より品質を追求し、国内のみならず海外にまで進出しています。また、地域と協力し、川場村に貢献していることは地域に根ざす企業のあり方を学びました。

グローバルとローカルをまさに併せ持っていると考えます。そして、雪ほたかを食べた、国内、国外の方が川場村に訪れてくだされば、グローバルへとなるでしょう。将来は雪ほたかのようなグローバルを目指せる企業を作りたいです。

実習先:(株)雪ほたか  
高崎商科大学 商学部3年  
KESUKE

